

ISSB 情報要請「アジェンダの優先度に関する協議」に関する意見提出について
(2023.8.29)

2023年5月4日にIFRS財団国際サステナビリティ基準審議会(以下、ISSB)から、2024年から開始する2年間を対象とした作業計画(S3以降のテーマ選定も含む)に関する情報要請「アジェンダの優先度に関する協議」が公表された。

このため、商社を中心とする会員の意見をとりまとめ、複数の事業セグメントで活動している商社のようなコングロマリット企業の特性に配慮する旨のご意見等を、2023年8月29日付でISSBに提出した。

記

広C発第37号
2023年8月29日

国際サステナビリティ基準審議会 御中

一般社団法人日本貿易会

ISSB 情報要請「アジェンダの優先度に関する協議」に関する意見提出について

一般社団法人日本貿易会は、日本の貿易商社(※)及び貿易団体を中心とする貿易業界団体であり、以下は、国際サステナビリティ基準審議会(ISSB)のISSB情報要請「アジェンダの優先度に関する協議」に対する会員企業のコメントである。

一部、個社意見の箇所は、「(※個社意見)」という形で記載している。

前提：

商社*)：日本独自の企業形態といわれる商社は、海外のソリューション(モノやサービス)を日本に輸入し、日本のソリューションを海外で展開してきた。最近では、従来のトレーディングに加え、事業投資の比重も高まっており、トレーディングと事業投資の両面で様々な機能を活用し、多様なビジネスを創出している。商社のもうひとつの特徴は、バリューチェーン戦略である。これは、原材料の開発・調達から製造・加工、流通、販売・サービスまで、いわゆる「川上から川下まで」の幅広いビジネスに関わることを意味する。このように幅広い領域で互いに関連する事業に参画することで、事業プロセス全体を俯瞰し、必要に応じて機能を提供することで、顧客の利便性を高め、より付加価値の高い事業を展開している。

そういった背景から、事業セクターが複数にまたがっている上、サプライチェーンのあらゆる立場で事業を展開しているため、個々のビジネス毎に重要なサステナビリティの要素が異なり、また、取組みのアプローチや時間軸が異なることにご留意いただきたい。

問 1: ISSB の活動の戦略的方向性及びバランス

・情報要請の第 18 項～第 22 項及び表 1 は、ISSB の作業に含まれる活動の概要を示している。

(a) 次の活動をどのように優先順位付けしますか。(最も優先度が高いものを 1、最も優先度が低いものを 4 とする)

優先順位	
1	・①新たなリサーチ及び基準設定のプロジェクトの開始
1	・②ISSB 基準（IFRS S1 基準及び S2 基準）の導入の支援
3	・③ISSB 基準の的を絞った拡充に関するリサーチ
4	・④SASB 基準の向上

(b) 付けた順位の理由を説明し、各活動において ISSB が優先すべき業務の種類を特定して下さい。

・新たな基準の設定は企業側の負担も大きいいため、S1 および S2 等の ISSB 基準の理解浸透に資するベストプラクティスや Q&A の公表などのフォローアップをお願いしたい。

・その一方で、CSRD といったサステナビリティ開示基準が先行している中で、特定の地域の開発基準がデファクトスタンダードとならないよう、ISSB による S2 以降のテーマの早期導入も重要である。

・欧州で事業を行っている企業にとって対応が不可避となっている欧州 CSRD において、開示基準の ESRS が既に気候以外のテーマにおいて開発済みであることを考えると、「新たなリサーチ及び基準設定のプロジェクトの開始」が優先され、ISSB が早期に ESRS と整合的な基準を作成することにより、情報利用者および作成者の混乱を限定すると考えている。

・「ISSB 基準（IFRS S1 基準及び S2 基準）の導入の支援」や「ISSB 基準の的を絞った拡充に関するリサーチ」も重要であると考えられるものの、前者については既に SSBJ が ISSB と適切にコミュニケーションを図り本邦への基準導入を準備しており、また、後者のうち重要性が高いトピックについては、新たな基準設定のプロジェクトにおいて、S1 および S2 との関連性、接続性の議論の中でカバーされ得る。従って、これらについては、S1 および S2 の丁寧な普及活動を継続し、「新たなリサーチ及び基準設定のプロジェクトの開始」を進展させることが望ましい。

(c) ISSB の作業に含めるべき他の活動はあるか。ある場合、それらの活動について説明するとともに、それらが必要な理由について説明して下さい。

- ・開示基準の乱立は、企業、情報利用者にとって望ましくないため、CSRD、ISSB、SEC が互いに整合した状態であることが望ましい。
- ・提案されている活動以外に「ISSB 基準と他のサステナビリティ開示基準（CSRD 等）との相互運用可能性（Interoperability）」について、企業側の報告にかかるワークロードやコスト等の負担軽減の観点から優先度高く進めて頂きたい。

問 2: ISSB の作業計画に追加される可能性がある新たなリサーチ・基準設定プロジェクト

●情報要請の第 23 項～第 26 項は、作業計画に追加される可能性のあるサステナビリティ関連報告事項の優先順位付けを行う際に ISSB が用いることを提案している規準（criteria）について述べている。

(a)ISSB は適切な規準を特定したと考えますか。

回答
Yes

(b)ISSB は他の規準を考慮すべきでしょうか。すべきである場合、それはどのような規準でしょうか。理由をご説明下さい。

回答	考慮すべき基準、その理由・根拠
・他の基準を考慮する必要はない。	

問 3: ISSB の作業計画に追加される可能性がある新たなリサーチ・基準設定プロジェクト

●情報要請の第 27 項～第 38 項は、サステナビリティ関連のリサーチ及び基準設定のプロジェクトを特定するための ISSB のアプローチの概要を示している。付録 A は、ISSB の作業計画に追加される可能性のある各プロジェクト案について説明している。

(a) 2 年間の作業計画における新たなプロジェクトのための ISSB のキャパシティが限定的であることを考慮すると、ISSB は単一のプロジェクトを優先して大きな進展を図るべきでしょうか、それとも、複数のプロジェクトに取り組み、それぞれのプロジェクトで段階的な進展を図るべきでしょうか。

回答	理由・根拠
複数プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・外部環境の変化の速さに鑑み、複数プロジェクトの同時進行により段階的に進展させることで、関連するプロジェクト間での相乗効果やシナジー効果を期待できる。 ・また、企業側があらゆるサステナビリティ情報を開示する上では多大なリソースや時間が必要となるため、企業は早い段階から、複数のテーマに関するISSBのプロジェクトの段階的な進展を確認し、準備を行うことができるよう作業計画を進めていただきたい。 ・新たな基準設定においては、S2基準がTCFDを参照したように、いずれのトピックにおいても、一から基準を策定するというよりは、ある程度既存の基準やフレームワークを土台にする可能性が高い。加えて、現実的には、先行する欧州（ESRS）の枠組みから逸脱するような基準が作られる可能性も低く、ある程度基準最終化の到達点を見据えることが可能である。従って、複数を並行して段階的な進展を図ることでも、十分適用可能な基準が策定されると考えられる。 ・CSRが先行している状況下で、CSRと整合した統一の基準を作成することが、企業、情報利用者にとって有益であるものの、CSRが気候変動以外のサステナビリティ関連情報の基準を先行して設けている中では、グローバル企業に特定の地域の基準がデファクトスタンダードとして適用されることのないよう、ISSBはグローバルスタンダードを早期に開発いただきたい。 ・ただし、その中での優先度では、本邦においては有価証券報告書に人的資本情報の開示が義務化されるといった事情を鑑み、人的資本を優先いただきたい。

(i)単一プロジェクトとする場合、どのプロジェクトを優先すべきでしょうか。付録 A の 4 つのプロジェクトから選択することも、その他のプロジェクトを提案することも可能です。

- 生物多様性、生態系、生態系サービス
- 人的資本
- 人権
- 報告における統合
- その他—説明して下さい

回答	理由・根拠

(ii)複数のプロジェクトとする場合、どのプロジェクトを優先すべきでしょうか。また、相対的な優先度はどのようなものでしょうか。付録 A の 4 つのプロジェクトから選択することも、その他のプロジェクトを提案することも可能です。

- 生物多様性、生態系、生態系サービス
- 人的資本

- 人権
- 報告における統合
- その他—説明して下さい

回答	理由・根拠
•人的資本	<ul style="list-style-type: none"> •人的資本がすべての企業にとって共通して、競争力の向上・喪失に直結し、企業価値に影響する重要な課題であるものの、ルールが未整備であるため、先行して進めていただきたい。 •CSRD において既に基準開発がなされているため、ISSB においても早期に進めていただきたい。
•生物多様性、生態系、生態系サービス	<ul style="list-style-type: none"> •社会課題としての重要性が増し、TNFD の開示も今後さらに期待が高まると見込まれる中では、早期の段階から関連するフレームワークとの整合性を取ることが望ましい。 •CSRD において既に基準開発がなされているため、ISSB においても早期に進めていただきたい。
•人権	<ul style="list-style-type: none"> •社会課題としての重要性が増しているため。 •CSRD において既に基準開発がなされているため、ISSB においても早期に進めていただきたい。 •その際、S（社会）領域で重要なトピックスであるが、人的資本と重なる部分については棲み分けを考慮した上で基準開発（基準の対象範囲を明確化等）をしていただきたい。

問 4: ISSB の作業計画に追加される可能性がある新たなリサーチ・基準設定プロジェクト

(生物多様性・生態系・生態系サービス)

●生物多様性・生態系・生態系サービスに関するリサーチプロジェクトは、付録 A の A3 A14 項に記載されています。

(a) A11 項で特定されたサブトピックのうち、最も優先順位が高いものはどれでしょうか。該当するものをいくつかでも選択して下さい。特に投資家の情報ニーズを考慮して、選択した項目の相対的な優先度を説明して下さい。

- 淡水・海水資源及び生態系の利用
- 土地利用及び土地利用の変化
- 公害（大気、水、土壌への排出を含む）
- 資源開発（例：素材調達、循環型経済）
- 侵略的な外来種

最も優先度の高いサブトピック	相対的な優先度の根拠
—	<p>・商社は幅広い業種目つサプライチェーンの至るところで事業を展開しており、優先順位をつけることが難しい。優先的に開示するサブトピックは企業側に判断を委ねるべきではないか。</p> <p>(強いて優先度の高い項目を上げるとすれば、「資源開発」は、循環型経済、気候変動、生物多様性を三位一体で考える上で有益なサブトピックと考えられる。)</p>

上記で特定されていないサブトピックがあればご提案ください。また、企業のサステナビリティ関連のリスク及び機会に関する当該サブトピックの重要度、並びに関連情報の投資家にとっての有用性に関する見解があればご説明ください。

サブトピックの提案内容	重要度と投資者にとっての有用性

(b)生物多様性・生態系・生態系サービスに関連するサステナビリティ関連のリスク及び機会は、様々なビジネスモデル、経済活動、及び特定の業界への参加を特徴付ける他の共通の特性、又は所在地によって実質的に異なることから、サステナビリティ関連のリスク及び機会のパフォーマンスを把握するための指標は、関連する業界、セクター、又は所在地に特化して調整する必要があると考えますか。(Yes/No)

その理由を説明するとともに、このトピックに関するサステナビリティ関連のリスク及び機会が、様々な業界、セクター、所在地において、(i)どのように実質的に異なるか、又は(ii)どのように実質的に同じであるか、例を示して下さい。

Yes/No でお答えください	理由・例、根拠
Yes	<p>・業界、セクター、所在地ごとに事情が異なるため、一律の指標を適用することは妥当ではない。</p> <p>・生物多様性・生態系・生態系サービスに関連するサステナビリティ関連のリスク及び機会は、気候変動に於ける Green House Gas とは異なり、個々の事業活動に於ける場所、事業活動内容等によって影響を与える要素は変動し、プロジェクト毎に定量化指標を決め、評価しなければならぬため。</p> <p>・例えば、農業においては土壌汚染が考えられる一方で、森林事業では伐採による希少生物への影響によるリスクが高い可能性があり、指標も管理プロセスも異なることが考えられる。</p> <p>・特に商社は SASB が定めるセクターのうち、複数(約数十)業種において事業を行っており、個々の事業の生物多様性との関わりが異なる。</p>

(c)このプロジェクトを実施するにあたり、ISSB は、投資家のニーズに応えることに ISSB が焦点を当てていることを考慮しつつ、プロジェクトを迅速に進めるため、ISSB 並びにその他の基準設定主体及びフレームワーク提供者の資料を活用し、基礎とする可能性があります。A13 項で参照している資料又は組織のうち、ISSB が本プロジェクトを推進する上で活用し、優先すべきものはどれでしょうか。該当するだけの数を選択して下さい。

特に投資家の情報ニーズを参照して、選択した項目と相対的な優先度を説明して下さい。記載されていない資料を提案したい場合は、「その他」を選択し、コメント欄に提案を記入して下さい。必要と考えるだけの数の資料を提案可能です。ISSB がフィードバックを分析するのに役立つため、可能であれば、その資料を考慮することが重要であるとする理由を説明して下さい。

優先すべき組織、資料	選択した項目と相対的な優先度の根拠
●自然関連財務開示に関するタスクフォース (TNFD)	・TCFD の自然版として現時点で最も注目されている開示フレームワークであり、既に TNFD に基づいて開示を行っている、もしくは準備を進めている企業も多く、生物多様性に関する開示の基準として先行しているため、TNFD と整合することは重要である。
●SBTN (Science Based Targets Network) (※個社意見)	・SBTN は自然関連の目標設定に関するガイダンスとして最も注目されているイニシアチブであり、生物多様性に関する認証として先行していると考えため、整合性を確保しながら進めることが望ましい。

問 5: ISSB の作業計画に追加される可能性がある新たなリサーチ・基準設定プロジェクト (人的資本)

●人的資本に関するリサーチプロジェクトは、付録 A の A15 A26 項に記載されています。

(a)A22 項で特定されたサブトピックのうち、最も優先順位が高いものはどれでしょうか。該当するものをいくつでも選択して下さい。特に投資家の情報ニーズを考慮して、選択した項目と優先順位の相対レベルを説明して下さい。

最も優先度の高いサブトピック	相対的な優先度の根拠
・DE&I	・投資家からの関心が高いため
・労働力構成とコスト	・投資家が比較しやすい項目のため
・従業員エンゲージメント	・企業にとって重要な指標であるため
・労働力投資	・研修等の人的資本投資の重要性が高まっているため
・労働者のウェルビーイング (メンタルヘルス・福利厚生 (benefits) を含む)	

・バリューチェーンにおける労働条件	
・代替労働力 (alternative workforce)	

上記で特定されていないサブトピックがあればご提案下さい。また、企業のサステナビリティ関連のリスク及び機会に関する当該サブトピックの重要度、並びに関連情報の投資家にとっての有用性に関する見解があればご説明下さい。

サブトピックの提案内容	重要度と投資者にとっての有用性

(b)人的資本に関連するサステナビリティ関連のリスク及び機会は、様々なビジネスモデル、経済活動、及び特定の業界への参加を特徴付ける他の共通の特性、又は所在地によって実質的に異なることから、サステナビリティ関連のリスク及び機会のパフォーマンスを把握するための指標は、関連する業界、セクター、又は所在地に特化して調整する必要があると考えますか。(Yes/No)

その理由を説明するとともに、このトピックに関するサステナビリティ関連のリスク及び機会が、異なる業界、セクター、所在地において、(i)どのように実質的に異なるか、又は(ii)どのように実質的に同じであるか、例を示して下さい。

Yes/No でお答え下さい	理由・例、根拠
Yes	・各国事情に根差し労働慣行が異なり法制度や求められる人事制度等も地域・国ごとにバラツキがあるため。

(c)このプロジェクトを実施するにあたり、ISSB は、投資家のニーズに応えることに ISSB が焦点を当てていることを考慮しつつ、プロジェクトを迅速に進めるため、ISSB 並びにその他の基準設定主体及びフレームワーク提供者の資料を活用し、基礎とする可能性がある。A25 項で参照している資料又は組織のうち、ISSB が本リサーチを推進する上で優先すべきものはどれでしょうか。該当するだけの数を選択して下さい。特に投資家の情報ニーズを参照して、選択した項目と相対的な優先度を説明して下さい。記載されていない資料を提案したい場合は、「その他」を選択し、コメント欄に提案を記入して下さい。必要と考えるだけの数の資料を提案することが可能です。ISSB がフィードバックを分析するのに役立つため、可能であれば、その資料を考慮することが重要であると考え理由を説明して下さい。

優先すべき組織、資料	選択した項目と相対的な優先度の根拠
●GRI 基準 (※個社意見)	・投資家に加え広範なステークホルダーへの開示を意識したものであるため。

問 6 : ISSB の作業計画に追加される可能性がある新たなリサーチ・基準設定プロジェクト (人権)

- 人権に関するリサーチプロジェクトは、付録 A の A27 A37 項に記載されています。

(a)人権に関するトピックの中で、ISSB のリサーチにおいて優先的に取り組むべきと思われるサブトピックや論点はありますか。必要と思われるものは、いくつでも提案可能です。企業のサステナビリティ関連のリスク及び機会に関する当該サブトピックの重要度、並びに関連情報の投資家にとっての有用性に関する見解があれば併せてご説明下さい。

サブトピックの提案内容	重要度と投資者にとっての有用性
CSRD/ESRS 等地域別サステナビリティ情報開示基準との整合性	<ul style="list-style-type: none"> ・業界、セクター、所在地ごとに事情が異なるため、原則的には、優先して開示するサブトピックは各企業の判断に委ねるべきである。 ・ただし、地域別にサステナビリティ情報開示基準が並行して開発される中、各企業が判断して開示する際の参考となるよう、事業活動、人権課題、産業、地域によりアプローチが異なる人権尊重への取組の情報開示につき、報告者側の実務と労力を勘案した統一化された基準づくりに資するリサーチを行って頂きたい。

(b)人権に関連するサステナビリティ関連のリスク及び機会は、様々なビジネスモデル、経済活動、及び特定の業界への参加を特徴付ける他の共通の特性、又は所在地によって実質的に異なることから、サステナビリティ関連のリスク及び機会のパフォーマンスを把握するための指標は、関連する業界、セクター、又は所在地に特化して調整する必要があると考えますか。(Yes/No)

その理由を説明するとともに、このトピックに関するサステナビリティ関連のリスク及び機会が、様々な業界、セクター、所在地において、(i) どのように実質的に異なるか、又は (ii) どのように実質的に同じであるか、例を示して下さい。

Yes/No でお答え下さい	理由・例、根拠
Yes	<ul style="list-style-type: none"> ・業種、セクター、所在地ごと事情が異なるため、一律に要請することは妥当ではない。 ・具体的事例は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業や鉱業：比較的途上国での強制労働、児童労働、労働安全衛生リスク等との関連が高いが、構造的で現地政府の関与も重要な分野であり、民間企業単独での解決や調査がそもそも難しい。 ・労働安全、電子部品関連事業：上流の紛争鉱物、農業であれば強制・児童労働が主なリスクとして挙げられる。地域によっても状況が異なるため、一律の基準開発は有益な情報開示に繋がらないと考える。 ・エネルギー：IOC 等が Player であることも多く、人権課題の改善に向けた実行力や財務体力を有する対象も多く存在し、プロセスが全く異なる。 ・また、人権 DD やそれに関する情報開示は、人権課題の撲滅のためにあるべきで、開示が目的化せず、その結果が政府の能動的な構造問題の改善や多国籍機関による支援につながるような仕組みも必要。

(c)このプロジェクトを実施するにあたり、ISSB は、投資家のニーズに応えることに ISSB が焦点を当てていることを考慮しつつ、プロジェクトを迅速に進めるため、ISSB 並びにその他の基準設定主体及びフレームワーク提供者の資料を活用し、基礎とする可能性がある。A36 項で言及した資料や組織のうち、ISSB が本リサーチを推進する上で優先すべきものはどれでしょうか。該当するだけの数を選択して下さい。

特に投資家の情報ニーズを参照して、選択した項目と相対的な優先度を説明して下さい。記載されていない資料を提案することも可能—「その他」を選択し、コメント欄に提案を記入して下さい。必要と考えるだけの数の資料を提案可能。ISSB がフィードバックを分析するのに役立つため、可能であれば、その資料を考慮することが重要であるとする理由を説明して下さい。

優先すべき組織、資料	選択した項目と相対的な優先度の根拠
●国連ビジネスと人権に関する指導原則及び関連する報告フレームワーク	・企業の人権尊重への取組責任に関する、グローバルスタンダードとして基本的なフレームワークであり、サステナビリティ情報開示基準に於いても優先すべきと考えるから。
●ILO	ILO 中核的労働基準（強制労働、児童労働、差別、結社の自由、労働安全衛生）は優先的に保護・解決されるべき人権課題であるため。
●国連 先住民族の権利に関する宣言	
●GRI 基準（※個社意見）	

問 7: ISSB の作業計画に追加される可能性がある新たなリサーチ・基準設定プロジェクト（報告における統合）

●報告における統合に関するリサーチプロジェクトは、付録 A の A38 A51 項に記載されています。

(a)報告における統合プロジェクトは、ISSB のリソースを集中的に使用する可能性があります。これは、トピック別基準の開発ペースを鈍らせる可能性があることを意味しますが、一方で、IFRS 財団の一連の資料の価値を最大に発揮させるのに役立つ可能性があります。

ISSB の新たな 2 年間の作業計画の一環として、3 つのサステナビリティ関連トピック（生物多様性・生態系・生態系サービス、人的資本、人権）との関連において、報告における統合プロジェクトを進めることについて、どのように優先順位を付けますか。

回答
優先度低 (報告における統合プロジェクトは優先度が低い)

(b)報告における統合プロジェクトを優先的に検討すべきと考える場合、必要な調整作業を踏まえると、IASB との正式な共同プロジェクトとして進めるべきか、ISSB のプロジェクト（正式な共同プロジェクトでなくとも、必要に応じて IASB からのインプットを活用可能）として進めるべきか。どのように実施すべきと考えるか、またその理由を説明して下さい。

回答	理由

(c)報告における統合プロジェクトを進めるにあたり、ISSB は以下の概念を活用し、取り込むべきと考えますか。

(i) IASB の公開草案「経営者による説明」

賛同する場合は、ISSB が取り込むべきと考える具体的な概念を説明して下さい。賛同しない場合は、その理由を説明して下さい。(Yes/No)

回答	賛同する場合は ISSB が取り込むべきと考える具体的な概念、賛同しない場合はその理由
No	まずは各トピックスの基準開発が優先と考えるため。

(ii) 国際統合報告フレームワーク

賛同する場合は、ISSB が取り込むべきと考える具体的な概念を説明して下さい。賛同しない場合は、その理由を説明して下さい。(Yes/No)

回答	賛同する場合は ISSB が取り込むべきと考える具体的な概念、賛同しない場合はその理由
No	まずは各トピックスの基準開発が優先と考えるため。

(iii)その他の情報源 (Yes/No)

賛同する場合は、ISSB が取り込むべきと考える具体的な概念を説明して下さい。賛同しない場合は、その理由を説明して下さい。(Yes/No)

回答	賛同する場合は ISSB が取り込むべきと考える具体的な概念、賛同しない場合はその理由

(d) ISSB が本プロジェクトを進める場合、ISSB に対して他の提案はありますか。

・投資家にとって有用である価値創造に係る一体的な報告に向けた議論を行うこと自体に異論はないが、サステナビリティに係る報告が広く一般化していない現状下で、個別トピックの進展（＝新たな基準設定）と較べると優先度は低いと考えている。その上でプロジェクトを進める上では以下が重要であると考えている。

・IASB との協働について、個別トピックに係るプロジェクトを阻害しない前提で進められるべきである。

・ISSB が IASB の「経営者による説明」や国際統合報告フレームワークを活用することについても異存はないが、各法域における法定開示の形式、規則等に違いがある中で、どの法域の作成者にとっても共通して目指すことのできるゴールをどのように置か、という点を明確にしてプロジェクトを進行させるべきである。S1 基準においても、サステナビリティ関連財務情報の開示箇所を特定せず、一般目的財務報告の一部として開示することのみを定めており、各法域における法定開示の形式に係る定めや、監査/保証のカバー範囲も踏まえると、一意的に適切な場所を示すことは困難である。この点は、IASB における「経営者による説明」が、IFRS 会計基準を構成しないガイダンスの位置づけとなったことと同様で、強制力のある基準あるいは基準同等の枠組みを示すことをゴールと出来ないのであれば、足元では、個別トピックの進展の方が優先されると考える。

・比較可能なグローバルベースラインという ISSB 基準のコンセプトを鑑みると、ISSB が主導的に取り組むべきトピックではないと考える。

但し、これは、ISSB はトピック別基準の開発を優先的に進めるべきとの考えであり、報告における統合プロジェクトの A44 項のような「つながりのある情報」などは重要な内容と捉えており、当該プロジェクトの推進が一切不要であるという考えではない。

問 8: その他のコメント

●ISSB の活動及び作業計画について、他にコメントはありますか。

・商社は SASB のセクターの分類上、数十個のセクターにまたがっている上、サプライチェーンのあらゆる立場で事業を展開しているため、個々のビジネス毎に重要なサステナビリティの要素が異なり、また、取組みのアプローチや時間軸が異なる。

・そういった中で細則主義に基づいた均一的な情報開示では、投資者が適切に判断できず、企業価値の理解に繋がらない可能性が高いと考える。一方で、企業の透明性、アカウントビリティを高める上でもサステナビリティの取組みの情報開示は重要であり、その上で ISSB の基準設定においては企業が自社の事業戦略に沿った情報開示の判断を行うことができるよう、原則主義の基準を望む。

・また、企業が S1, S2 の開示に向けてノウハウやリソース不足などの課題がある中では、S1, S2 導入の支援を行い、企業のサステナビリティ情報開示の基盤を整えることを優先する必要があるのではないかと考える。同時に、CSRD といった特定地域の基準において生物多様性や人権などの基準開発が先行している中、ISSB には S2 以降のテーマのリサーチにリソースを割き、グローバルスタンダードとしての早めの基準導入を期待したい。

・ISSB、CSRD、SEC など情報開示規制が乱立することは、企業、情報利用者にとって比較可能性、利便性の面で望ましくなく、統一した開示基準となることが望ましい。

以上

To the International Sustainability Standards Board

Japan Foreign Trade Council, Inc.

**Comments on the Request for Information
“IFRS Sustainability Disclosure Standard - Consultation on Agenda Priorities”**

JFTC is a trade-industry association with Japanese trading and investment companies (so called *Shosha**) and trading organizations. The following are the comments from Japan Foreign Trade Council (JFTC) regarding the International Sustainability Standards Board (ISSB)’s Request for Information “IFRS Sustainability Disclosure Standard - Consultation on Agenda Priorities”.

*) *Shosha*, which are referred to as Japan's unique corporate form, have been importing foreign solutions (goods and services) into Japan and developing Japanese solutions overseas. In addition to traditional trade in goods, *Shosha* have recently been making a larger share of business investment, creating a variety of businesses by utilizing various functions in both trade and business investment.

Another characteristic of the *Shosha* business is its value chain strategy. This means being involved in a wide range of businesses in the so-called "upstream to downstream" area, from the development and procurement of raw materials to manufacturing and processing, distribution, and sales and service. By participating in businesses related to each other in this wide range of areas, the company is able to look at the entire business process and provide functions as needed, thereby increasing customer convenience and developing businesses with higher added value.

Please note that because the *Shosha* thus span multiple business sectors and develop businesses from all positions of the supply chain, their material sustainability factors vary by individual business and their approaches to initiatives and timelines also differ.

From : Japan Foreign Trade Council, Inc. (JFTC)

Address : Kasumigaseki Common Gate West Tower 20F
3-2-1, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-0013, Japan

URL: https://www.jftc.or.jp/english/home_e.htm

Question 1—Strategic direction and balance of the ISSB’s activities

Paragraphs 18–22 and Table 1 provide an overview of activities within the scope of the ISSB’s work.

- (a) From highest to lowest priority, how would you rank the following activities?
- (i) beginning new research and standard-setting projects
 - (ii) supporting the implementation of ISSB Standards IFRS S1 and IFRS S2
 - (iii) researching targeted enhancements to the ISSB Standards
 - (iv) enhancing the Sustainability Accounting Standards Board (SASB) Standards
- (b) Please explain the reasons for your ranking order and specify the types of work the ISSB should prioritise within each activity.
- (c) Should any other activities be included within the scope of the ISSB’s work? If so, please describe these activities and explain why they are necessary.

- (a) 1. (i) beginning new research and standard-setting projects
1. (ii) supporting the implementation of ISSB Standards IFRS S1 and IFRS S2
3. (iii) researching targeted enhancements to the ISSB Standards
4. (iv) enhancing the Sustainability Accounting Standards Board (SASB) Standards

- (b)
- Because the burden on entities from setting new standards is great, we would like you to follow up including the release of best practices and Q&A that contribute to spreading the understanding of S1, S2, and other ISSB Standards.
 - On the other hand, as sustainability disclosure standards such as the CSRD already exist, it is important for them subsequent to S2 to be implemented by the ISSB at an early time so that the disclosure standards of a particular region do not become the de facto standards.
 - Considering that the ESRS disclosure standards are already developed for themes other than climate change in the EU CSRD, which entities conducting business in the EU must comply with, we think that giving priority to “beginning new research and standard-setting projects” and having the ISSB formulate standards that are consistent with the ESRS at an early time would limit confusion among information users and preparers.
 - While we think that “supporting the implementation of ISSB Standards IFRS S1 and IFRS S2” and “researching targeted enhancements to the ISSB Standards” are also important, regarding the former, the SSBJ is already having appropriate communication with the ISSB and preparing the implementation of standards in Japan, and regarding material topics among the latter, these may be covered in discussions on relevance and connectivity with S1 and S2 in new standard-setting projects. Consequently, regarding these, it is desirable to continue detailed activities to spread S1 and S2 and to advance “beginning new research and standard-setting projects.”

- (c)
- Because a profusion of disclosure standards is undesirable for entities and information users, it is desirable that the CSRD, ISSB, and SEC are mutually consistent.
 - Aside from the proposed activities, we would like the “interoperability between the ISSB Standards and other sustainability disclosure standards (CSRD, etc.)” to be prioritized and advanced from the perspective of reducing the reporting workload, cost, and other burdens on entities.

Question 2—Criteria for assessing sustainability reporting matters that could be added to the ISSB’s work plan

Paragraphs 23–26 discuss the criteria the ISSB proposes to use when prioritising sustainability-related reporting issues that could be added to its work plan.

- (a) Do you think the ISSB has identified the appropriate criteria?
(b) Should the ISSB consider any other criteria? If so what criteria and why?

(a) Yes, we do.

(b) The ISSB does not need to consider any other criteria.

Question 3—New research and standard-setting projects that could be added to the ISSB’s work plan

Paragraphs 27–38 provide an overview of the ISSB’s approach to identifying sustainability-related research and standard-setting projects. Appendix A describes each of the proposed projects that could be added to the ISSB’s work plan.

- (a) Taking into account the ISSB’s limited capacity for new projects in its new two-year work plan, should the ISSB prioritise a single project in a concentrated effort to make significant progress on that, or should the ISSB work on more than one project and make more incremental progress on each of them?
- (i) If a single project, which one should be prioritised? You may select from the four proposed projects in Appendix A or suggest another project.
- (ii) If more than one project, which projects should be prioritised and what is the relative level of priority from highest to lowest priority? You may select from the four proposed projects in Appendix A or suggest another project (or projects).

(a) The ISSB should work on more than one project and make more incremental progress on each of them, because:

- Reflecting on the speed of changes in the external environment, working on more than one project and making more incremental progress on each of them can be expected to generate the multiplier effect and synergy among related projects.
- Also, because the disclosure of all types of sustainability information by entities will

require significant resources and time, we would like the work plan to be advanced so that entities can confirm the incremental progress on ISSB projects concerning multiple themes and make preparations at an early stage.

- In setting new standards, just as how the S2 standard refers to the TCFD, there is a high likelihood to use existing standards and frameworks as a foundation to some extent in any topics, rather than preparing standards from scratch. Moreover, realistically, there is little likelihood of formulating standards that deviate from the prior framework in the EU (ESRS), and it is possible to look ahead to the destination point of the finalization of the standards to some extent. Consequently, we think that standards that can be adequately applied can be formulated even by working on multiple standards in parallel and making incremental progress.
- Given that the CSRD already exists, formulating unified standards that are consistent with the CSRD would be beneficial to entities and information users, but as the CSRD already sets standards for sustainability-related information aside from climate change, we would like the ISSB to develop global standards at an early time so that the standards of a particular region are not applied to global entities as the de facto standards.
- However, as for the priority in this, we would like human capital to be given priority considering the situation that human capital information disclosure will be required in annual securities reports in Japan.

(ii)

- Human capital
 - Although human capital is an material issue directly linked to the improvement and loss of competitiveness and impacting enterprise value for all entities in common, rules have not been established, so we would like this project to be advanced earlier. Also, because the standards have already been developed in the CSRD, we would like these advanced at an early time at the ISSB as well.
- Biodiversity, ecosystems and ecosystem services
 - As the importance of biodiversity, ecosystems and ecosystem services as a social issue is increasing and expectations of TNFD disclosure are predicted to further increase from now, it is desirable to adopt consistency with related frameworks from an early stage. Also, because the standards have already been developed in the CSRD, we would like these advanced at an early time at the ISSB as well.
- Human rights
 - The importance of human rights as a social issue is increasing. Also, because the standards have already been developed in the CSRD, we would like these advanced at an early time at the ISSB as well. In such case, while human rights are an material topic in the field of society (S), we would like the standards developed in consideration of separation of the areas that overlap with human capital (clarification of the scope covered by the standards, etc.).

Question 4— New research and standard-setting projects that could be added to the ISSB’s work plan: Biodiversity, ecosystems and ecosystem services

The research project on biodiversity, ecosystems and ecosystem services is described in paragraphs A3–A14 of Appendix A. Please respond to these questions:

- (a) Of the subtopics identified in paragraph A11, to which would you give the highest priority? Please select as many as applicable.

Please explain your choices and the relative level of priority with particular reference to the information needs of investors.

You may also suggest subtopics that have not been specified. To help the ISSB analyse the feedback, where possible, please provide:

- (i) a short description of the subtopic (and the associated sustainability-related risks and opportunities); and
(ii) your view on the importance of the subtopic with regard to an entity’s sustainability-related risks and opportunities and the usefulness of the related information to investors.

- (b) Do you believe that sustainability-related risks and opportunities related to this topic are substantially different across different business models, economic activities and other common features that characterise participation in an industry, or geographic locations such that measures to capture performance on such sustainability-related risks and opportunities would need to be tailored to be specific to the industry, sector or geographic location to which they relate?

Please explain your reasoning and provide examples of how sustainability-related risks and opportunities related to this topic will either be (i) substantially different or (ii) substantially the same across different industries, sectors or geographic locations.

- (c) In executing this project, the ISSB could leverage and build upon the materials of the ISSB and other standard-setters and framework providers to expedite the project, while taking into consideration the ISSB’s focus on meeting the needs of investors. Which of the materials or organisations referenced in paragraph A13 should be utilised and prioritised by the ISSB in pursuing the project? Please select as many as applicable.

Please explain your choices and the relative level of priority with particular reference to the information needs of investors. You can suggest materials that are not specified. You can suggest as many materials as you deem necessary. To help the ISSB analyse the feedback, where possible, please explain why you think the materials are important to consider.

(a)

- The *Shosha* are engaged in a wide range of industries and develop business from all positions of the supply chain, so it is difficult to set priorities. Decisions on subtopics to be given priority in disclosure should be left up to the judgment of each entity.

(If we are forced to select the items to be given priority, we think that “resource development” is a beneficial subtopic for integrated consideration of the circular

economy, climate change, and biodiversity).

(b) Yes, we believe that.

(i) Our reasons are as follows.

- Because conditions vary by industry, sector, and geographic location, we do not think that applying uniform indicators is appropriate.
- Unlike risks and opportunities of greenhouse gases in climate change, those of biodiversity, ecosystems, and ecosystem services impact depend on the location of each business activities, business activities contents, etc., and so quantitative indicators must be determined and evaluated for each project.
- For example, while there might be soil pollution in agriculture, there may be a high risk of impacting rare species from logging in forestry projects, so the indicators and management process could be different.
- In particular, among the sectors prescribed by the SASB, the Soshu conduct business in multiple (approximately tens of) industries, and the relation of individual projects with biodiversity differs.

(c)

- Taskforce on Nature-related Financial Disclosures (TNFD)
 - The TNFD is the disclosure framework presently given the most attention as the nature version of the TCFD and many entities already conduct or are preparing to conduct disclosure based on the TNFD. Because it is the existing standard for disclosure concerning biodiversity, consistency with the TNFD is important.
- Science Based Targets Network (SBTN) (*individual company opinion)
 - The SBTN is the initiative given the most attention as guidance related to the setting of nature-related goals and is considered to be a leading certification related to biodiversity, so it is desirable to proceed ensuring consistency with the SBTN.

Question 5— New research and standard-setting projects that could be added to the ISSB’s work plan: Human capital

The research project on human capital is described in paragraphs A15–A26 of Appendix A. Please respond to the following questions:

(a) Of the subtopics identified in paragraph A22, to which would you give the highest priority? Please select as many as applicable.

Please explain your choices and the relative level of priority with particular reference to the information needs of investors.

You may also suggest subtopics that have not been specified. To help the ISSB analyse the feedback, where possible, please provide:

(i) a short description of the subtopic (and the associated sustainability-related risks

and opportunities); and

(ii) your view on the importance of the subtopic with regard to an entity's sustainability-related risks and opportunities and the usefulness of the related information to investors.

(b) Do you believe that sustainability-related risks and opportunities related to this topic are substantially different across different business models, economic activities and other common features that characterise participation in an industry, or geographic locations such that measures to capture performance on such sustainability-related risks and opportunities would need to be tailored to be specific to the industry, sector or geographic location to which they relate?

Please explain your reasoning and provide examples of how sustainability-related risks and opportunities related to this topic will either be (i) substantially different or (ii) substantially the same across different industries, sectors or geographic locations.

(c) In executing this project, the ISSB could leverage and build upon the materials of the ISSB and other standard-setters and framework providers to expedite the project, while taking into consideration the ISSB's focus on meeting the needs of investors. Which of the materials or organisations referenced in paragraph A25 should be prioritised by the ISSB in pursuing its research? Please select as many as applicable. Please explain your choices and the relative level of priority with particular reference to the information needs of investors. You can suggest materials that are not specified. You can suggest as many materials as you deem necessary. To help the ISSB analyse the feedback, where possible, please explain why you think the materials are important to consider.

(a)

- DEI
 - Because there is a high level of interest from investors.
- Workforce composition and costs
 - Because it is an item that investors can compare relatively easily.
- Employee engagement
 - Because it is an indicator that is important for entities.
- Workforce investment
 - Because the importance of training and other human capital investments is increasing.
- Worker wellbeing (including mental health and benefits)
- Labour conditions in the value chain
- The alternative workforce

- (b) We think these would need to be tailored to be specific to the industry, sector or geographic location to which they relate.
 - (i) Our reasons are as follows.
 - Because labour practices vary by country and region based on the conditions in each country and the legal system, the required human resources system, etc. .
- (c)
 - GRI standards (*individual company opinion)
 - Because these are standards with an awareness of disclosure to a wide range of stakeholders in addition to investors.

Question 6— New research and standard-setting projects that could be added to the ISSB’s work plan: Human rights

The research project on human rights is described in paragraphs A27–A37 of Appendix A. Please respond to these questions:

- (a) Within the topic of human rights, are there particular subtopics or issues that you feel should be prioritised in the ISSB’s research? You can suggest as many subtopics or issues as you deem necessary. To help the ISSB analyse the feedback, where possible, please provide:
 - (i) a short description of the subtopic (and the associated sustainability-related risks and opportunities); and
 - (ii) your view on the importance of the subtopic with regard to an entity’s sustainability-related risks and opportunities and the usefulness of the related information to investors.
- (b) Do you believe that sustainability-related risks and opportunities related to this topic are substantially different across different business models, economic activities and other common features that characterise participation in an industry, or geographic locations such that measures to capture performance on such sustainability-related risks and opportunities would need to be tailored to be specific to the industry, sector or geographic location to which they relate?

Please explain your reasoning and provide examples of how sustainability-related risks and opportunities related to this topic will either be (i) substantially different or (ii) substantially the same across different industries, sectors or geographic locations.
- (c) In executing this project, the ISSB could leverage and build upon the materials of the ISSB and other standard-setters and framework providers to expedite the project, while taking into consideration the ISSB’s focus on meeting the needs of investors. Which of the materials or organisations referenced in paragraph A36 should be prioritised by the ISSB in pursuing its research? Please select as many as applicable. Please explain your choices and the relative level of priority with particular reference to the information needs of investors. You can suggest materials that are not specified. You can suggest as many materials as you deem necessary. To help the ISSB analyse

the feedback, where possible, please explain why you think the materials are important to consider.

- (a) Consistency with CSRD/ESRS and other regional sustainability information disclosure standards
- Because conditions vary by industry, sector, and geographic location, in principle decisions on subtopics to be given priority in disclosure should be left up to the judgment of each entity.
 - However, amid the parallel development of sustainability information disclosure standards by region, for reference for each entity when making decisions and disclosure, we would like you to conduct research that contributes to the creation of unified standards considering the workload and manpower of the reporting party, regarding disclosure of initiatives to respect human rights for which the approach varies by business activity, human rights issue, industry, and region.
- (b) We think these would need to be tailored to be specific to the industry, sector or geographic location to which they relate.
- Because conditions vary by industry, sector, and geographic location, having uniform requirements would not be appropriate.
 - Specific examples are as follows.
 - Agriculture, forestry, and fisheries industry and mining industry: While in developing countries the relevance for forced labour, child labour, labour safety and health risk, etc. is relatively high, this is a field with structural issues where the involvement of local government is important and to begin with it is difficult for private entities alone to resolve and research.
 - Labour safety, electronic components-related business: In upstream conflict minerals and in agriculture, forced labour and child labour are cited as the main risks. Because the conditions vary by region, we think that the development of uniform standards would not lead to beneficial information disclosure.
 - Energy: International Oil Companies (IOCs), etc. are often players and there are many entities with the execution ability and financial capacity to move toward improvement of human rights issues. So the process is entirely different.
 - Also, human rights due diligence and related information disclosure should be for the elimination of human rights issues, and rather than making disclosure the objective, a framework whereby the results lead to the active improvement of the structural problems by governments and support by multinational organs is necessary.

- (c)
- UN Guiding Principles on Business and Human Rights and the associated UN Guiding Principles Reporting Framework
 - As the global standard, these are the basic framework of the responsibility for enterprise initiatives for the respect of human rights and we think that these should be given priority in sustainability information disclosure.

 - ILO
 - Because the ILO core labour standards (forced labour, child labour, discrimination, freedom of association, occupational safety and health) are human rights issues that should be given priority for protection and resolution.

 - The United Nations Declaration on the Rights of Indigenous Peoples

 - GRI standards

Question 7— New research and standard-setting projects that could be added to the ISSB’s work plan: Integration in reporting

The research project on integration in reporting is described in paragraphs A38–A51 of Appendix A. Please respond to the following questions:

- (a) The integration in reporting project could be intensive on the ISSB’s resources. While this means it could hinder the pace at which the topical development standards are developed, it could also help realise the full value of the IFRS Foundation’s suite of materials. How would you prioritise advancing the integration in reporting project in relation to the three sustainability-related topics (proposed projects on biodiversity, ecosystems and ecosystem services; human capital; and human rights) as part of the ISSB’s new two-year work plan?
- (b) In light of the coordination efforts required, if you think the integration in reporting project should be considered a priority, do you think that it should be advanced as a formal joint project with the IASB, or pursued as an ISSB project (which could still draw on input from the IASB as needed without being a formal joint project)?
- (i) If you prefer a formal joint project, please explain how you think this should be conducted and why.
- (ii) If you prefer an ISSB project, please explain how you think this should be conducted and why.
- (c) In pursuing the project on integration in reporting, do you think the ISSB should build on and incorporate concepts from:
- (i) the IASB’s Exposure Draft Management Commentary? If you agree, please describe any particular concepts that you think the ISSB should incorporate in its work. If you disagree, please explain why.
- (ii) the Integrated Reporting Framework? If you agree, please describe any particular concepts that you think the ISSB should incorporate in its work. If you disagree,

please explain why.

(iii) other sources? If you agree, please describe the source(s) and any particular concepts that you think the ISSB should incorporate in its work.

(d) Do you have any other suggestions for the ISSB if it pursues the project?

(a) The integration in reporting project has low priority.

(c)

(i) the IASB's Exposure Draft *Management Commentary*:

We do not agree.

Because we think standards for each topic should be developed first.

(ii) Integrated Reporting Framework:

We do not agree.

Because we think standards for each topic should be developed first.

(d)

- While we have no objection to discussions toward integrated reporting pertaining to the creation of value that is useful for investors, under the current conditions where reporting on sustainability is not widely prevalent, we think that the priority is low compared with the development of individual topics (= the setting of new standards). But when you advance the project, we think that the following are important.
 - Regarding collaboration with the IASB, this should be advanced under the presumption that it will not interfere with projects related to individual topics.
 - While we have no objection to the ISSB's use of the IASB's Management Commentary or of the Integrated Reporting Framework, as the statutory disclosure formats, regulations, etc. vary by jurisdiction, the project should be advanced after clarifying the point of how to set common goals to be aimed at by preparers in all jurisdictions. The S1 standards also do not specify the location of sustainability-related financial information, and only stipulate disclosure as part of general-use financial reporting, and considering the specifications of statutory disclosure formats in each jurisdiction and the scope covered by audits/assurances, uniquely indicating a particular location is difficult. This is almost the same as the case where IASB's Management Commentary was positioned as guidance that does not constitute the IFRS accounting standards. If the goal cannot be presenting enforceable standards or an equivalent framework, then we think that at present the advancement of individual topics should be given priority.
- Reflecting on the concept of the ISSB Standards as comparable global baselines, we think this is not a topic that the ISSB should take the leadership in addressing.

However, this does not mean that we think that advancing this project is entirely unnecessary. For example, we perceive the “connected information” in paragraph A44 in the integration in reporting project as material contents. We just think that the ISSB should give priority to developing standards by topic.

Question 8— Other comments

Do you have any other comments on the ISSB’s activities and work plan?
--

- Because the *Shosha* are engaged in tens of sectors in the SASB sector categorization and develop business from all positions of the supply chain, their material sustainability factors vary by individual business, and their approaches to initiatives and timelines also differ.
- Given those conditions, we think it is highly likely that under uniform information disclosure emphasizing rules-based regulations, investors would not be able to make appropriate judgments and that this would not lead to understanding of enterprise value. On the other hand, information disclosure on sustainability initiatives is important to enhance the transparency and accountability of entities, and therefore we think that principles-based standards would be desirable in the setting of the ISSB Standards so that entities can decide information disclosure in accordance with their business strategies.
- Also, as there are issues such as entities’ lack of know-how and resources toward S1 and S2 disclosure, we think it is necessary to give priority to providing assistance for the implementation of S1 and S2 and preparing the foundation for entities’ sustainability information disclosure.
At the same time, given that standards on biodiversity, human rights, etc. have already been developed in standards for specific regions such as the CSRD, we expect the ISSB to devote resources to research on themes subsequent to S2 and implement standards at an early time as global standards.
- The profusion of information disclosure regulations such as the ISSB, CSRD, and SEC is undesirable in terms of comparability and convenience for entities and information users, and having unified disclosure standards is desirable.